

研 修 名 保育士研修D まなび

平成28年2月12日(金) 10:00~12:30

発 表 ① 「子どものよりよい育ちにむけた関係機関とのネットワーク」

今里保育園 森下 知恵 氏

発 表 ② 「保育者の資質向上を図る」

八雲保育園 迫田 顕子 氏

指導助言 十文字学園女子大学理事・特任教授

お茶の水女子大学名誉教授

学術博士 内田 伸子 氏



1 研究発表と質疑応答

1) 「子どものよりよい育ちにむけた関係機関とのネットワーク」

長岡京市の今里保育園は、隣接する長岡第七小学校と「就学へのスムーズな接続」をめざして、平成24年度から交流をしている。保育園の交流のねらいは、体験型学習という視点の提案や連携の望ましい形を実践で模索することと、「あそび」から「まなび」の連続性を図ることである。小学校の交流のねらいは接続を円滑に進めることと、身近な人々との関わりを通して互いの理解を深めること、そして、年下に優しくする気持ちを持って遊びながら交流することである。主な活動時間は、小学校の25分間休憩であり、平成25年度までは小学校中心の活動だったが、平成26年度以降は保育園での活動を増やすことにより、小学校教員にも保育内容や子どもの姿を知ってもらうことができた。平成27年度は、小学校の生活科の授業で「秋みつけ」というテーマのもと、どんぐりのおもちゃ作りをする公開授業がありました。それに向けて、年中児10名、年長児10名、1年生20名で3つのグループを作り、目的を明確に持ち、交流のスケジュールに沿って中間休み交流やどんぐり拾いの活動をすることができた。

このことにより、保小の縦割りの関係ができ、体験をとおして学習することを保育に取り入れることができた。就学前教育と小学校教育を互いに理解することで保育の質の向上につながることに期待したい。

以上の実践報告を受け、内田伸子氏は、単発のイベントとして交流を行うのではなく、年間を通して行うことがとても大切。また問題視されがちな『小1プロブレム』はコミュニケーションの違いや大人と子どもの関係性の違い、子どもの立ち位置の変化が原因とされるが互いに理解をすることで小学校側の意識の変化に繋がるのであると述べられた。

2) 「保育者の資質向上をめざして」

舞鶴市の八雲保育園は、子ども主体の保育を実践するために、「子ども時間」

を取り入れている。「子ども時間」では、四季の自然を利用した園庭での遊びや造形遊びを異年齢の交流を交えながら、登園直後から子どもが自ら遊び込める時間と環境をつくることを重視した。「子ども時間」の中で子どもたちの姿を見取る視点としては、一つ目は、環境の中で対象に働きかけて活発に遊んでいるか、工夫しているか、二つ目は、子ども自ら言葉を発しているか、伝え合っているか、最後に、人やもの、対象とのかかわりにより学びを深めているかである。以上3つの視点が「子ども時間」を通して成長する子どもと、子どもに触れることで、共に成長していく保育士の姿の相互からみた保育の視点である。

「子ども時間」を設定する上で、午後のコーナー遊びを登園直後から自由に遊べるように日課時程を変えたり、道具をデザイン性のものから本物の調理器具に、また固い物から柔らかい物に変えたり、教材・教具の置き方について変えることで、それまで見られなかった遊びを生み出すようになり、遊びが質的に変化していった。保育士については、一人ひとりの姿を見つめることで、子どもの動きや意味を汲み取るころから成長を読み取ることができるようになった。指導するのではなく寄り添い支えること、指示を出すのではなく共感し提案することで、教え・教えられる関係から横に並んで一緒に遊ぶ関係へと変化していった。

以上の実践報告を受け、内田伸子氏は、保育の力量とは、子どもを見守る力を高めることが必要である。放任するのではなく、いつでも援助が与えられることが大切である。計画に捉われず、20人いれば20通りの時間割、遊び方があるものであると述べられた。

2 感想

両園の研究発表では、大きなテーマの後ろに「保育の質の向上」という目的があった。両園のアプローチの仕方は違うが、最終的には保育士も子どもと一緒に成長して、保育の質の向上に繋がっていくのだと思い、とても勉強になった。

現在行っている、小学校との交流の内容を充実させ、更に互いのことを知ることで親睦を深め、スムーズに進学できるようにしていきたい。そして「小1プロブレム」の問題解決のためにも、改めて保小連携の大切さを感じた。

保育士一人ひとりが「子ども中心の保育」について意識し、子どもたちに寄り添える保育を目指し、本日学ばせていただいたことを少しずつでも保育に取り入れていきたいと思う。
ありがとうございました。

(記録 千代川保育園 小西 まどか)